

日本政治学会 会報

The JPSA News

No.67

JUNE.2014

日本政治学会 2014 年度研究大会について

2014 年度企画委員長 名取 良太

「メタ学会としての日本政治学会」¹が、「(各分野の) 統合的な機能」²と「横断的な組織としての主導的な役割」³を果たすため、「サブ・ディスプリン相互の知の交換」⁴や「専門性という垣根を越えた討議、議論」⁵ができるような「領域を横断するようなセッション」⁶を配置すること。

本年度の企画委員会は、歴代の企画委員長によって引き継がれてきたこの問題意識を受け継ぎ、企画の策定に取り組みました。企画委員会自体も、テーマの設定から登壇者の選定まで分野横断的に討議を重ね、結果として5つの企画委員会企画を設置することになりました。異なる分野間での議論という難しい役割をお願いしたにもかかわらず、ご快諾いただきました登壇者の方々には厚く御礼を申し上げます。

研究報告の公募には、公募企画・自由論題・ポスターセッション合わせて70件近い応募をいただきました。分科会設置数に限りがあるため、応募者全員のご希望には添えませんでした。多く

の応募をいただいたおかげで、内容に統一感のある13の自由論題セッションを作ることができました。公募企画では、いずれも重要なテーマを扱う14のセッションを設置しました。この他、2つの国際交流委員会企画、6つの研究交流委員会企画のセッションがあり、合計で40セッションを開催することとなりました。またポスターセッションでも14の報告が予定されています。

共通論題のテーマは、「政治改革以降の日本政治の変容 ～20年後にみる政治改革の意義」です。1994年に政治改革関連法案が成立してから、20年が経過しました。その間、省庁再編、地方分権一括法成立、内閣機能強化などの制度面と、政権交代、ねじれ国会の常態化、格差社会の発生などの現象面で、さまざまな変化が生じています。そこで共通論題では、政治改革以降の20年を総括するとともに、今後の課題について議論いただくことしております。

研究大会は、10月11日(土)と12日(日)の2日間、早稲田大学で開催されます。会員の皆様には、ぜひ大会にご参加いただき、活発な議論をお願い申し上げます。

最後になりましたが、プログラム策定に多大なご協力をいただきました、研究交流委員会、国際交流委員会、企画委員会の委員の皆様には感謝申し上げます。また、再三にわたる部屋数の変更依頼にも、快く対応いただきました齋藤純一先生をはじめ、早稲田大学の皆様にも感謝申し上げます。

¹ 辻中 2009 年度企画委員長, 「日本政治学会会報」NO. 57, p 1.

² 杉田 2010 年度企画委員長, 同, NO. 59, p 1.

³ 杉田, 前掲.

⁴ 伊藤 2008 年度企画委員長, 同, NO. 55, p 1.

⁵ 辻中 2009 年度企画委員長, 同, NO. 57, p 1.

⁶ 押村 2012 年度企画委員長, 同, NO. 61, p 1. および小西 2013 年度企画委員長, 同, NO. 63, p 1.

日本政治学会 2014年度研究大会プログラム (報告タイトルは仮題)

第1日 10月11日 (土)

(10:00~12:00) 分科会 A (A1~A8)

A-1: 日本型レジームの変容と政治的対立軸のゆくえ (企画委員会企画)

司 会: 久米郁男 (早稲田大学)

報 告: 三浦まり (上智大学)

牧原出 (東京大学)

大村華子 (関西学院大学)

討 論: 村井哲也 (明治大学)

報 告: 片山慶隆 (関西外国語大学)「正木ひろしの国際認識—戦中期を中心に—」
手塚雄太 (鎌ヶ谷市郷土資料館)「昭和戦時期における代議士と利益団体の相互関係—愛知県選出代議士加藤鎌五郎と陶磁器業界を事例として—」

島田大輔 (早稲田大学)「戦前期日本の中国専門記者の中国認識—太田宇之助を中心に—」

討 論: 小山俊樹 (帝京大学)

樋口秀実 (國學院大學)

A-2: 政治家育成と政治学 (企画委員会企画)

司 会: 岩井奉信 (日本大学)

報 告: 宇野重規 (東京大学)「政治家オバマの形成と政治学」

永久寿夫 (PHP研究所)「松下政経塾における政治家養成」

討 論: 磯崎育男 (千葉大学)

石川敬史 (東京理科大学)

A-5: 政治の大統領制化は続いているのか: 大統領制化論の再検討 (現代政治学研究会)

司 会: 松田憲忠 (青山学院大学)

報 告: 岩崎正洋 (日本大学)「政治の大統領制化論の意義とは何か」

渡辺博明 (龍谷大学)「北欧における政党政治の変容と「大統領制化」論の射程」

古地順一郎 (北海道教育大学)「大統領制化論とカナダ政治: ハーパー政権を中心に」

討 論: 三竹直哉 (駒澤大学)

西岡晋 (金沢大学)

A-3: 国境を越えるデモクラシーにおける「政治的平等」の再考: 理念と制度のあいだで (公募企画)

司 会: 押村高 (青山学院大学)

報 告: 井之口智亮 (早稲田大学大学院)「国境横断的な次元における相互尊重の可能性」

宮井健志 (北海道大学大学院)「在留外国人と在外国民の政治参加—「複合的な政治的平等」の理論的可能性—」

内田智 (早稲田大学大学院)「根源的な正義としての政治的平等の擁護とその制度化の行方—欧州における国境横断的な民主的制度実践に着目して—」

討 論: 遠藤知子 (関西学院大学)

土谷岳史 (高崎経済大学)

A-6: 変化の政治過程 (日本政治過程研究会)

司 会: 河野武司 (慶應義塾大学)

報 告: 堤英敬 (香川大学)「候補者リクルートメントの変化の政治過程」

三田妃路佳 (椋山女学園大学)「航空政策における制度変化の政治過程」

築山宏樹 (慶應義塾大学大学院・日本学術振興会)「地方議会の役割配分変化の政治過程」

討 論: 中谷美穂 (明治学院大学)

鎌原勇太 (横浜国立大学)

A-4: 近代日本の戦争と政治・社会・メディア—満州事変から敗戦まで— (公募企画)

司 会: 小山俊樹 (帝京大学)

A-7：国家社会関係（自由論題）

- 司 会：高安健将（成蹊大学）
報 告：板倉孝信（早稲田大学大学院）「反革命戦争中期の英国戦時財政に対する請願運動の展開」
太田響子（東京大学）「複合的政策の構造分析—イギリスにおける対人社会サービス政策の形成と変容」
山邊達彦（早稲田大学大学院）「オーストラリア労使関係の分権化」
討 論：秋本富雄（東海大学）
杉田弘也（神奈川大学）

A-8：中国・北朝鮮政治（自由論題）

- 司 会：唐亮（早稲田大学）
報 告：Yida Zhai（東京大学）「パワーを持てば立派な国になれるか：アジア諸国における中国の国家像」
尹月（東京大学大学院）「ポスト権威主義体制下の中国網民」
宮本悟（聖学院大学）「延坪島への砲撃に至る北朝鮮の政策決定過程—4つのモデルの適用—」
討 論：唐亮（早稲田大学）

第1日（11日）

（13：30～15：30）分科会（B1～B8）

B-1：「リーダーシップと北東アジア」（国際交流委員会企画）使用言語：日本語

- 司 会：木村幹（神戸大学）
報 告：孫基燮（釜山外国語大学）「中曽根時期の日本の東アジア政策」
陳昌洙（世宗研究所）「リーダーシップが日韓関係に与える影響」
討 論：服部龍二（中央大学）
竹中治堅（政策研究大学院大学）

B-2：政治理論とは何か（公募企画）

- 司 会：田村哲樹（名古屋大学）
報 告：河野勝（早稲田大学）
盛山和夫（関西学院大学）
討 論：西山真司（名古屋大学大学院）
井上彰（立命館大学）

B-3：二つの民主党—イタリアと日本における政治改革と中道左派政党（公募企画）

- 司 会：小川有美（立教大学）
報 告：村上信一郎（神戸市外国語大学）「イタリアの民主党」
山口二郎（法政大学）「日本の民主党」
討 論：伊藤武（専修大学）
中北浩爾（一橋大学）

B-4：マルクスと政治学（公募企画）

- 司 会：神谷章生（札幌学院大学）
報 告：松井暁（専修大学）「自由主義と社会主義の規範理論—マルクスの「自由」「平等」「コミュニティ」概念を中心に」
堀雅晴（立命館大学）「マルクスとガヴァナンス論—アソシエーション論への接合にむけて」
進藤兵（都留文科大学）「2008年以後の日本政治—藤田=ジェソップ・アプローチによる資本主義国家分析」
討 論：神谷章生（札幌学院大学）

B-5：現代の政治過程における政策と選挙の実証分析（現代政治過程研究フォーラム）

- 司 会：石上泰州（平成国際大学）
報 告：樋渡展洋（東京大学）「政党制の変動と政策選好」
信田智人（国際大学）「日本の政権交代と対外政策決定過程」
光延忠彦（島根県立大学）「国政選挙における投票参加状況の差異の要因に関する一考察—島根県、全国平均、東京都との比較を通じて—」
討 論：河野武司（慶應義塾大学）
境家史郎（東京大学）

B-6：戦後日本の争点（自由論題）

- 司 会：徳久恭子（立命館大学）
報 告：舟橋正真（日本大学大学院・日本学術振興会）「1970年代の昭和天皇外遊問題と自民党政権—意思決定にみる象徴天皇の位置づけを中心に—」

尾野嘉邦（東北大学）・籠谷公司（大阪経済大学）「周辺諸国の脅威と国会審議：日本は「普通の国」へ戻ろうとしているのか？」

討 論：北岡伸一（国際大学）
建林正彦（京都大学）

B-7：アメリカの安全保障政策（自由論題）

司 会：西崎文子（東京大学）
報 告：松本明日香（日本国際問題研究所）「議会と世論に制約されるオバマ外交・安全保障政策：2010年、2012年、2014年米議会選挙を事例として」
岩田英子（防衛研究所）「非伝統的安全保障に関する一考察—女性軍人の活用とその意味」
討 論：西崎文子（東京大学）
三浦瑠麗（日本学術振興会）

B-8：各国の中央地方関係（自由論題）

司 会：小原隆治（早稲田大学）
報 告：舟木律子（中央大学）「チリにおける地方分権改革の政治過程」
石見豊（国士舘大学）「スコットランド独立をめぐる住民投票実施までの政治過程の分析——政府発表文書と市民参画のしくみの検討を中心に——」
討 論：小原隆治（早稲田大学）

第1日（11日）

（15：45～18：15） 共通論題

政治改革以降の日本政治の変容 ～20年後にみる政治改革の意義

司 会：辻中豊（筑波大学）
報 告：小林良彰（慶應義塾大学）「代議制民主主義の変容と課題」
待鳥聡史（京都大学）「政治過程の変容と課題」
宮本太郎（中央大学）「公共政策・社会経済構造の変容と課題」
討 論：河田潤一（神戸学院大学）
荻部直（東京大学）

18：30～20：30 懇親会（於：リーガロイヤルホテル東京）

第2日 10月12日（日）

（9：30～11：30） 分科会（C1～C8）

C-1：平成大合併の総括（企画委員会企画）

司 会：新川達郎（同志社大学）
報 告：今井照（福島大学）
長峯純一（関西学院大学）
河村和徳（東北大学）

C-2：選挙ガバナンスの国際比較（公募企画）

司 会：大西裕（神戸大学）
報 告：遠藤貢（東京大学）「アフリカにおける選挙管理システムの比較分析：南部を中心に」
川中豪（アジア経済研究所）「選挙管理システムの形成：フィリピン、タイ・インドネシア比較」
高橋百合子（神戸大学）「選挙管理機関の信頼性決定要因：ラテンアメリカに焦点を当て」
討 論：鹿毛利枝子（東京大学）
浜中新吾（山形大学）

C-3：なぜ『不正』は発生するのか：政治学によるその発生原因の解明（公募企画）

司 会：山本武彦（早稲田大学）
報 告：玉井雅隆（立命館大学）
清水直樹（高知短期大学）
横田匡紀（東京理科大学）
討 論：藤井禎介（立命館大学）

C-4：民主主義の形態と方向性の実証分析：政治学者によるコーディングと知的エリート世論調査による（公募企画）

司 会：恒川恵市（政策研究大学院大学）
報 告：猪口孝（新潟県立大学）「世界政治学者の世論調査の分析」
窪田悠一（新潟県立大学）「世界の民主主義体制のデータ分析」
討 論：宇野重規（東京大学）

C-5：西洋政治思想史（自由論題）

司 会：谷澤正嗣（早稲田大学）

報 告：隠岐（須賀）麻衣（早稲田大学）「説得—プラトンの政治的言論の技術—」

加藤雅俊（横浜国立大学）「ボブ・ジェッソブの政治分析—戦略・関係アプローチに基づく資本主義国家分析、その到達点と課題—」

谷本純一（福岡教育大学）「例外状態と市民社会」

討 論：小田川大典（岡山大学）

C-6：選挙・投票行動（自由論題）

司 会：森正（愛知学院大学）

報 告：今井亮佑（早稲田大学）・荒井紀一郎（首都大学東京）・日野愛郎（早稲田大学）「政党システムの変容と政策対立軸の変化」

松谷満（中京大学）・成元哲（中京大学）「原発事故被災地における市民の政治意識・投票行動」

金兌希（慶應義塾大学）「選挙動員と信頼」

討 論：三船毅（中央大学）

中村悦大（愛媛大学）

C-7：韓国政治（自由論題）

司 会：磯崎典世（学習院大学）

報 告：安周永（常葉大学）「韓国における「直接行動」の隆盛と保守政党体制の変化」

李正吉（名古屋大学）「韓国政治における「分断」の意義と民主主義定着への課題」

金東煥（立命館大学）「候補者指名方法の開放と議員行動、そして政党組織—2012年総選挙における済州市（乙）選挙区・民主党の事例—」

討 論：清水敏行（札幌学院大学）

C-8：ヨーロッパ政治（自由論題）

司 会：安井宏樹（神戸大学）

報 告：中川洋一（立命館大学）「2013年ドイ

ツ連邦総選挙の分析と連邦政治への含意」

杉村豪一（神戸大学）「ヨーロッパの政党システムの「現在」と「歴史」

東村紀子（大阪大学）「フランス及びモナコの移民・難民政策—国益と人道主義のはざままで—」

稲永祐介（EPHE/CNRS-GSRL）「フランス第三共和政における国民意識とナショナリズム：差異に対する憎悪をめぐって」

討 論：小野一（工学院大学）

川嶋周一（明治大学）

第2日（12日）

（13：15～15：15）分科会（D1～D8）

D-1：災厄の政治学（企画委員会企画）

司 会：小田川大典（岡山大学）

報 告：尾原宏之（立教大学）

前川真行（大阪府立大学）

討 論：北原糸子

伊藤光利（関西大学）

D-2：公選首長と地方議会（国際交流委員会企画）

使用言語：英語

司 会：曾我謙悟（神戸大学）

報 告：Chris Game（パーミンガム大学）The UK's problem with directly elected mayors：should we have learned more from Europe and Japan?

砂原庸介（大阪大学）Party politics and Presidentialism in Japanese Local Governments

討 論：石原俊彦（関西学院大学）

伊藤正次（首都大学東京）

D-3：政治的判断と時間の断層—尖鋭化するセキュリティゼーションをめぐって（公募企画）

司 会：高橋良輔（佐賀大学）

報 告：大庭弘継（南山大学）「最終決断としての人道的介入—不確実性とメチ」

高澤洋志（東京大学大学院）「非時間化とセキュリティゼーション—『保

護する責任』概念の変遷から」
伊藤丈人（青山学院大学）「正当化に
必要な『時間』に関する考察—食品
安全問題を事例として」

討 論：太田宏（早稲田大学）
芝崎厚士（駒澤大学）

D-4：アラブの春の再検討（公募企画）

司 会：浜中新吾（山形大学）
報 告：山本達也（清泉女子大学）「中東政治
変動におけるインターネットの役
割」
杉浦功一（和洋女子大学）「中東の政
治変動に対する民主化支援の検証」
小松志朗（早稲田大学）「中東の政治
変動と軍事介入：リビアとシリア」
討 論：山尾大（九州大学）
岩崎正洋（日本大学）

D-5：選挙研究における実証分析のフロンティア （政治学方法論研究会）

司 会：池田謙一（同志社大学）
報 告：浅古泰史（早稲田大学）「Business
Cycle and the Entry of Third-Party
Candidates in the State-level
Elections」
梅田道生（愛媛大学）「競争的/非競争
的な選挙戦の民主的帰結」
勝又裕斗（東京大学）「経済投票に対
する国際経済の影響」
討 論：鈴木基史（京都大学）
遠藤晶久（早稲田大学）

D-6：日本政治思想史・政治史（自由論題）

司 会：大久保健晴（慶應義塾大学）
報 告：飛矢崎雅也（明治大学）「関東大震災
下の自警団の心理に関する一考察—
大杉栄のアンアーキズムを手がかり
に」
矢嶋光（大阪大学）「芦田均と政民連
携運動—1930年代の外務省と政党
の関係をめぐって—」
原田伸一（国士舘大学）「民政党は何

故、党内の掌握に失敗したのか—ポ
スト浜口をめぐる攻防—」

討 論：梅森直之（早稲田大学）
五百旗頭薫（東京大学）

D-7：議員・政党（自由論題）

司 会：堤英敬（香川大学）
報 告：小島真一（神戸大学大学院）「自民党
復党の分析」
鶴谷将彦（立命館大学）「大都市にお
ける自民党 ～京都市を事例に～」
討 論：濱本真輔（北九州市立大学）
森正（愛知学院大学）

D-8：東南アジア政治（自由論題）

司 会：日下涉（名古屋大学）
報 告：東島雅昌（ミシガン州立大学）・粕谷
祐子（慶應義塾大学）「権威主義体
制の存続と執政府・議会関係：大統
領制と議院内閣制のもたらす違い」
鷲田任邦（東京大学大学院・学術研究
員）「長期政権下の選挙政治と政党
間協力：マレーシア与党連合の閣僚
ポスト配分戦略」
伊賀司（京都大学）「民主化移行期の
機密保護と情報公開をめぐる政治過
程—マレーシアの事例から」
討 論：日下涉（名古屋大学）
川中豪（アジア経済研究所）

第2日（12日）

（15：30～17：30）分科会（E1～E8）

E-1：ジェンダーの政治学と政治学のジェンダー 性（企画委員会企画）

司 会：衛藤幹子（法政大学）
報 告：辻由希（京都大学）
戸田真紀子（京都女子大学）
討 論：岡野八代（同志社大学）
三浦まり（上智大学）

E-2：政治哲学／政治理論とリアル・ポリティク ス（公募企画）

司 会：宇野重規（東京大学）

報 告：大澤津（北九州市立大学）「原理・実践・『政治』—現代正義論と現実政治」

乙部延剛（茨城大学）「どの実践に、どうやって架橋するのか—政治理論の役割の再検討」

討 論：山岡龍一（放送大学）
松元雅和（関西大学）

E-3：移民政策と福祉再編の政治（公募企画）

司 会：横田正顕（東北大学）

報 告：島田幸典（京都大学）「再編期自由主義レジームにおける福祉国家と移民—英国を事例として」

伊藤武（専修大学）「イタリアの移民政策と家族主義レジームの『再家族化』」

尾玉剛士（獨協大学）「フランスにおける“移民問題”と福祉国家再編の政治」

討 論：近藤正基（神戸大学）
小川有美（立教大学）

E-4：政権交代期における有権者の政治意識と投票行動（公募企画）

司 会：小林良彰（慶應義塾大学）

報 告：飯田健（同志社大学）「政権交代期における有権者の政治意識の特質」

三輪洋文（東京大学）・谷口将紀（東京大学）「現代日本における有権者の政策空間認識の不均質性」

平野浩（学習院大学）「『アベノミクス』評価と投票行動」

討 論：竹中佳彦（筑波大学）
日野愛郎（早稲田大学）

E-5：政治資金分析の理論と実証（公募企画）

司 会：池谷知明（早稲田大学）

報 告：河崎健（上智大学）「ドイツにおける政治資金制度と実証」

富崎隆（駒澤大学）「政治資金研究の研究動向及びイギリスにおける実証分析」

増田正（高崎経済大学）「フランスにおける政治資金制度と実証」

討 論：水戸克典（日本大学）

E-6：日本外交・安全保障の歴史的基盤（戦前戦後・比較政治史研究フォーラム）

司 会：村井良太（駒澤大学）

報 告：佐々木雄一（東京大学大学院）「明治立憲政治における外交と世論—原内閣期を中心に」

大前信也（同志社女子大学）「戦火はなぜ広がったか—事変拡大の政治過程」

萩藤大明（神戸大学大学院）「東アジアにおける日米華関係—日米安全保障条約が中華民国に与えた影響1958-1962年」

討 論：戸部良一（国際日本文化研究センター）
伏見岳人（東北大学）

E-7：周辺・境界からの視座（現代地域政治研究会）

司 会：岡澤憲美（早稲田大学）

報 告：渡辺容一郎（日本大学）「2014年スコットランド住民投票とキャメロン保守党」

古川浩司（中京大学）「日本の国境地域における諸問題」

池尾靖志（立命館大学）「安全保障をめぐる中央地方の政府間関係—日本全土に広がるオスプレイ配備を切り口として」

討 論：孫崎亨（元外務省）
照屋寛之（沖縄国際大学）
白鳥浩（法政大学）

E-8：政策過程（自由論題）

司 会：青木栄一（東北大学）

報 告：京俊介（中京大学）「刑事政策の政治学的分析：少年法「厳罰化」とイシュー・セイリアンス」

松浦淳介（慶應義塾大学）「分裂議会

のもとにおける閣法の立法過程」

討 論：内山融（東京大学）

佐々田博教（北海道大学）

第2日（12日）

（13：00～17：00）ポスターセッション（F1～F14）

ポスターセッション：政治学のフロンティア

F-1：佐藤智美（日本安全保障・危機管理学会）

「地方自治体における防災危機管理監に求められる資質、役割とは何か？ —東日本大震災における岩手県を事例として—」

F-2：北村 浩（政治経済研究所）「原発災害による広域避難者の現状と「復興支援」の課題—ソーシャルワークの実践における規範的政治理論の可能性・2—」

F-3：寺迫 剛（（一財）行政管理研究センター）「日独地域レベル（道州制／連邦制）における政官関係の比較—行政制度と政党政治—」

F-4：中村悦大（愛媛大学）「土建政治の理論—現在の支出が買う未来の票」

F-5：小田勇樹（慶應義塾大学）「開放型の公務員制度における公募任用」

F-6：朴 志善（東京大学大学院）「日韓の与党

事前協議制度の形成：党内一体性をめぐるダイナミズム」

F-7：吉田龍太郎（慶應義塾大学）「日本民主党の挑戦と終焉—政策調整の成功と複合的な保革対立—」

F-8：山本英弘（山形大学）「社会運動に対する許容度の規定因—日韓独の国際比較分析—」

F-9：平山 実（防衛大学校）「アルジェリア事件の再検討—在外邦人・在外企業の保護は万全か」

F-10：深谷 健（武蔵野大学）「生産者カルテルの揺らぎ？ 現代日本の産業ダイナミクスと規制政治」

F-11：前田幸男（東京大学）「内閣支持率と選挙結果—参院補選を例に」

F-12：坂井亮太（早稲田大学）「熟議過程における意思決定プロセスの探求 ～多属性選択を通じた市民の意見表明と集計における規範的課題～」

F-13：崔 碩鎮（北海道大学）「「ポピュリスト」なきポピュリズムの可能性：2011年の大阪ダブル選挙とソウル市長補欠選挙の事例を中心に」

F-14：細貝 亮（早稲田大学）・工藤文（早稲田大学）「新聞記事のテキスト分析—全国紙と地方紙の比較を中心に」

研究大会報告論文の公開・入手方式について

日本政治学会事務局

日本政治学会では、報告論文をウェブページ上に公開したうえで、ダウンロードにより会員が各自でご入手いただく方式を採用し、研究大会期間中の報告論文の販売は行っていません。これは、販売・頒布用の報告論文の印刷といった報告者をはじめとする方々の負担を軽減することを目的とした方式です。本年度も同様の方式を採用させていただきますたく存じます。

なお、ウェブページを経由した報告論文へのアクセスは会員の方々に限定させていただきます。準備が整い次第、会員の皆様には閲覧・ダウンロードのためのパスワードをお知らせいたします。また、報告論文の閲覧・ダウンロード期間は、研究大会期間をはさんでその前後約2週間ずつを予定しております。以上、今年度も皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

研究会開催校（早稲田大学）からのお知らせ

2014年度大会・研究会は、10月11日（土）、12日（日）の両日、早稲田大学で開催されます。初日と2日目で会場が異なり若干ご不便をおかけしますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。11日は7号館、12日は9月に竣工予定の3号館を使用します。

① 参加申込

今回の大会・研究会では葉書、インターネットによる事前参加申し込みは行いません。参加費、懇親会費は当日会場受付にてお支払いいただきますようお願いいたします。

② 宿泊

各自早めにご予約くださいますようお願いいたします。

③ 会場ならびに会場へのアクセス

会場は早稲田大学早稲田キャンパスです。地下鉄東西線早稲田駅（高田馬場寄りの出口 徒歩5分）、またはJR山手線高田馬場駅前から早大正門行きのバス（早大正門下車 徒歩2分）をご利用いただくのが便利です。また、キャンパス内の建物の配置については、早稲田大学ホームページから「交通アクセス」→「早稲田キャンパス」に入ってご覧ください。

④ 懇親会

大会初日の懇親会は、リーガロイヤルホテル東京（会場から徒歩5分）で行います。懇親会費は

6,000円を予定しています。

⑤ 昼食

11日は大学内の生協（大隈ガーデンハウス）や近隣の店舗を利用することができます。12日は日曜日のため、大学の近隣で営業している店舗はごくわずかですのでご注意ください（生協も営業しておりません）。

⑥ 託児所

託児所は会場には開設しません。下記の施設については、11日、12日両日とも申し込み状況により利用が可能です（有料）。利用される方は、各自ご手配くださいますようお願いいたします（事前登録・利用登録が必要です、登録の際に日本政治学会の会員である旨お申し出ください）。

「早稲田大学 学生・教職員用託児室」
早稲田大学99号館（Step21, 1階）
電話 03-3203-4341

問い合わせ先：齋藤純一

jsaito@waseda.jp

Tel and Fax: 03-3202-5342

早稲田大学政治経済学術院

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

*お問い合わせはできるだけEメールでお願いいたします。

『年報政治学』独立論文公募のお知らせ

査読委員会委員長 押村 高

『年報政治学』では論文を公募しています。公募論文は、「特集」テーマに関連した「特集論文」と、特定のテーマにとらわれない「独立論文」の2種類に区分されます。「独立論文」は、特定の締切り期日を設けず受け付けています。ただし編集の都合上、2015年度第I号（2015年6月刊行予定）に掲載を希望される会員は、2014年10月20日までに下記の送付先に原稿をご提出ください。公募論文には査読による審査が行われます。審査を公正かつ迅速に行うため、正副委員長のほか5名の委員からなる査読委員会が設けられています。査読委員会は、会員の中から査読者を選び、査読結果にもとづいて掲載論文を確定いたします。論文の投稿に関してくわしくは、日本政治学会ホームページに掲載されている「論文投稿規程」および「査読委員会規程」をご覧ください。

なお、二重投稿は規定により禁止されていることを申し添えます。

*原稿送付先：

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学国際政治経済学部「押村高研究室」内 日本政治学会査読委員会

電子メール：toshimur@sipeb.aoyama.ac.jp

*投稿規程

独立論文・特集論文ともに学会ホームページ (<http://www.jpsa-web.org/toukou.html>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて上記へ送付して下さい。投稿規程により、未発表でない論文、論文の分量（注、参考文献、図表を含め原則20,000字以内）を超過している論文、また応募時点の年度の会費を納入済みでない会員の論文は受理できませんので、投稿前に必ず規程をご確認ください。分量の計算については、<http://www.jpsa-web.org/bunnryou.html> を併せてご参照ください。

『年報政治学』 2015年度第 I 号特集論文公募のお知らせ

2015年度第 I 号年報委員長 小川 有美
査読委員会委員長 押村 高

2015年度第 I 号（2015年6月刊行予定）のテーマを「政治理論と実証研究の対話（仮題）」といたしました。政治学が専門分化した現在において、政治理論と実証研究はどのような関係に立つのか、それを再考するのがこの特集の目的です。一般に政治理論といわれる政治哲学や規範理論は、実証的な研究とは「別の分野」と認識される場合も少なくありません。しかし政治理論とは本来現実認識と切り離された「あるべき」論ではなく、何が政治であるかという定義、現象とそのメカニズムの説明、将来的予測も含んでいるはずで、また民主化、代表制、市民社会、福祉国家、信頼、リスクといったテーマは、思想・規範だけの問題ではなく、具体的制度分析・実証と組み合わせられることによって、政治学の豊かな発展をも

たらしていることはいうまでもありません。ゲーム理論をはじめとするフォーマルな理論は、実証とともに規範的な論争にも寄与することが期待されています。本特集では、安易に規範と実証を混淆させることや、目的のない学際性を期待しているのではなく、各分野の先端に立たれている研究者それぞれの立場から、政治学がどのような視座と方法をもつことが有効であるのか、大胆な考察と問題提起を得たいと願っています。そこで、このテーマに関連する研究論文の投稿を広く日本政治学会会員から募りたいと思います。原稿の締切りは2014年10月20日（消印有効）とします。投稿原稿は学会ホームページ (<http://www.jpssa-web.org/>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

『年報政治学』 2015年度第 II 号特集論文公募のお知らせ

2015年度第 II 号年報委員長 池谷 知明
査読委員会委員長 押村 高

2015年度第 II 号（2015年12月刊行予定）のテーマを「代表と統合の政治変容（仮題）」としました。19世紀末から20世紀初頭にかけて成立した、普通選挙権、組織政党の活動、社会集団の政治過程への参入、マス・メディアによる世論の創出などによってつくられ、機能してきたと考えられる代表と統合の政治的均衡（デモクラティックな政治的均衡）は、およそ1世紀を経て、グローバル化、インターネットの急速な普及等によって、動揺しつつあり、新たな均衡が模索されているように思われます。ポピュリズムの動きや分権化などの制度変更なども、代表と統合

の再均衡化の動きと見る事ができましょう。こうした問題意識の下で、政治社会における部分の代表と全体の統合の政治変容という視点に立った実証研究、歴史研究、規範的考察など、広く論文を募りたいと思います。多くのみなさんからのすぐれた論考を期待します。

原稿の締切りは2015年3月20日（消印有効）とします。投稿原稿は学会ホームページ (<http://www.jpssa-web.org/>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

2013年度日本政治学会第4回理事会議事録

日時：2013年12月21日（土）17時～19時
場所：京都大学 東京オフィス 第2会議室
（東京都港区港南2-15-1 品川インターシ
ティ A棟27階）

議題

〈審議事項〉

1. オブザーバーの出席について

竹中次期常務理事の傍聴が承認された。

2. 入退会の承認

13名の入会申請があり、審議のうえ了承された（敬称略）。

一般会員（7名）

柴田晃芳、太田響子、飯田連太郎、大串敦、鷺田任邦、山本公德、尾玉剛士

学生会員（6名）

松井陽征、木下健、翟一達、長谷川桃子、舟橋正真、竜聖人

前回理事会時点での会員数1,766名、この間の退会者3名（うち申し出による退会2名、逝去による退会1名）であり、今回の入会承認者13名を加えた結果、会員数は1,776名となった。

3. 年報の学会補助について

前回理事会での議論を踏まえ、さらに協議の結果、予算としては年報委員会経費とは別立てで、20万円を上限として、研究会開催についての計画案を事務局で審査のうえ補助し、直近理事会で報告することとなった。

4. 分野別研究会規約の改正について

大西研究交流委員長の提案に基づき議論の結果、規約が別紙のとおり改正された。

ただし、①9条については、研究交流委員会を通じて、理事会は廃止を報告されることを付記すること、改正の趣旨についてあらためてHPで説

明する文章を大西委員長により作成することが決定された。

〈報告事項〉

1. 各種委員会報告

①2013年度企画委員会

小西委員長（真淵理事長代読）より、北海学園大学にて、大過なく研究大会が開催されたことが報告された。

②2014年度企画委員会

名取委員長より、現時点における活動状況が報告された。共通論題のテーマは「政治改革以後の日本政治の変容」とされること、3月理事会でプログラムが提案されることが報告された。

③2013年Ⅱ号年報編集委員会

遠藤（誠治）委員長（真淵理事長代読）より、編集作業の遅れのため、年報の発送は1月の予定であること、本来同封されるはずのニューズレターはすでに発送しており、年報の発送費用（14万円程度）は予備費から賄う予定であることが報告された。

④2014年Ⅰ号年報編集委員会

西澤委員長（真淵理事長代読）より、2014年2月末に木鐸社に完成原稿を提出すべく、現在、各委員において執筆作業が続いていること、公募論文・書評についても、それぞれの担当者との調整を進めているところであることが報告された。

⑤2014年Ⅱ号年報編集委員会

吉野委員長（真淵理事長代読）より、各委員の先生方と特集論文のテーマに関して、具体的な打ち合わせを当面メール上で行い、論文テーマの重複などがないように調整する予定であること、白崎護氏（同志社大学）を新たに委員に選任したことが報告された。

学 会 ニ ュ ー ス

⑥2015年I号年報編集委員会

小川委員長より、科研費に応募したことが報告された。

⑦2015年II号年報編集委員会

池谷委員長より、科研費に応募したことが報告された。

⑧2013年文献委員会

白鳥委員長より、活動が無事完了したことが報告された。

⑨2014年文献委員会

西川委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑩2014年書評委員会

辻中委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑪2015年書評委員長

酒井委員長（真淵理事長代読）より、現在、委員の人選を進めており、次回理事会には、委員リストを提出の予定であることが報告された。

⑫査読委員会

押村委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑬研究交流委員会

大西委員長より、分野別研究会のあり方を抜本的に再検討する必要と、あわせて研究会の企画の立て方についても改革が必要であることが報告された。

⑭国際交流委員会

城山委員長より、韓国に2名の派遣が完了し、英国派遣に1名の公募が決定されたことが報告された。

⑮英文雑誌編集委員会

三浦委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑯IPSA担当

田中理事（真淵理事長代読）より、次期会長候補に田中理事が選任されたこと、したがって新たな理事をIPSAの担当として派遣する必要があることが報告された。

2. 英文雑誌の配布について

小野耕二前理事（真淵理事長代読）より、英文雑誌の送付作業が完了したことが報告された。

3. 研究大会開催校について

佐藤（克廣）2013年度開催校（北海学園大学）担当理事より、無事に開催が終了したことが報告された。また、懇親会会場の生協に納品されたローストビーフが食品衛生法に定められた基準で製造されたものではなかったことが、12月になって卸業者から生協に通報され、その分の返金が開催校実行委員会にあったので、これを学会に寄付する旨の報告がなされた。

齋藤2014年度開催校（早稲田大学）担当理事（真淵理事長代読）より、開催準備が順調に進んでいることが報告された。

4. 事務局報告

①年報、開催校など各種マニュアル作成につき各担当者に依頼があった。

②その他

終身会員・シニア会員・学生会員について、HP掲載の案文を作成して掲載の予定であることが報告された。

5. 2013年度第5回理事会の開催について

日時：2014年3月15日（土）14時～

場所：京都大学公共政策大学院（京都市左京区吉田本町 京大本部構内）

以上

2013年度日本政治学会第5回理事会議事録

日時：2014年3月15日（土）14時～17時
場所：京都大学総合研究2号館 公共政策大学院
第2 RPG室
（京都市左京区吉田本町）

議題

〈審議事項〉

1. 入退会の承認

17名の入会申請があり、審議のうえ承認された（敬称略）。

一般会員（7名）

松井暁、小田勇樹、長谷川将規、高澤洋志、吉田裕一、佐々木雄一、勝又裕斗

学生会員（10名）

苫米地真理、和嶋克洋、新田紀子、上岡敦、萩藤大明、横山智哉、津村夏央、加藤博章、三谷宗一郎、松井孝太

2. 2013年度決算案及び2014年度予算案について

①2013年度決算案

秋月常務理事より、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2013年度決算案が説明された。続いて岡本監事から、3月15日午前10時から、京都大学法経本館2階第10演習室にて、西崎監事とともに監査を行い、会計処理が適正に行われたことを確認したことが報告された。審議の結果、決算案と監査が承認された（なお、西崎監事は所用のために午前中の監査業務の後、監査報告を岡本監事に委任の上、中座）。

②2014年度予算案

秋月常務理事より、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2014年度予算案の説明があり、審議の結果、予算案は承認された。

3. ウェブ・ジャーナルの発行について

持ち回り理事会ですでに承認された英文雑誌のウェブ・ジャーナル化について、三浦英文雑誌編

集委員会委員長（真淵理事長代読）から、2号について8月発行をめどに準備が進行していること、6本の論文が掲載予定であること、J-Stageへの掲載、ISSN および DOI の取得手続きを進めていることが報告された。その後協議の結果、毎年発行を目指しつつ隔年でもやむをえないこと、特集形式よりも独立論文形式が適当であること、年報の邦語論文を英訳することも考えることなどが確認された。

4. 「年報委員会への補助に関する規約」について 規約（案）として以下が提示され承認された。

- 1 補助を求めるときは年報委員長が支出計画を事務局に提出する。
ただし、慣例に従って科学研究費に申請をして、不採択であった場合に限る。
- 2 補助は1件について20万円以内とする。
- 3 事務局は支出計画を審査し、その結果を申請者に通知する。
- 4 事務局は審査結果を直近の理事会に報告する。

5. IPSA について

田中IPSA担当理事から説明があり、IPSAのEC（Executive Committee：理事会）への日本政治学会の代表の選考については、2010年10月9日の議事録で「今後、IPSA執行委員候補者の選任は、理事長、国際交流委員長、常務理事、および現執行委員によって構成される選考委員会において行い、選考委員会はその結果を理事会に報告し、了承を受けるものとする」とあること、これに基づいて持ち回りで審議の結果、三浦理事が適任であること、今後は上記4名に加えて次期理事長を加えた5名で選考を行うことが提案され、承認された。

〈報告事項〉

1. 各種委員会報告

① 2014年度企画委員会

名取委員長より、研究大会プログラムの報告が

行われた。

② 年報2013-II編集委員会

遠藤(誠治)委員長(真淵理事長報告代行)より、2014年1月20日付で発刊したことが報告された。

③ 年報2014-I編集委員会

西澤委員長より、予定通り発刊される見込みであることが報告された。

④ 年報2014-II編集委員会

吉野委員長(真淵理事長代読)より、現時点における活動状況が報告された。

⑤ 年報2015-I編集委員会

小川委員長(真淵理事長代読)より、3月21日(金)に、年報編集委員会研究会を開催する予定であることが報告された。

⑥ 年報2015-II編集委員会

池谷委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑦ 2014年文献委員会

西川委員長より、活動状況が報告された。そのうち、ある会員からの、業績自己申告書の書式をホームページからダウンロードできるようにしてはとの提案について意見交換を行った。その結果、非会員や会費未納者のチェックの問題があるので、ファイルにパスワードを設定の上ニューズレターにパスワードを同封するなどの方法を今後検討することとなった。

⑧ 2014年書評委員会

辻中委員長より、原稿が送付済みであることが報告された。

⑨ 2015年書評委員会

酒井委員長より委員会の構成が報告された。酒井委員長以下、政治理論：越智敏夫(新潟国際情報大学)、政治過程論：佐藤満(立命館大学)、行政学・地方自治：外山公美(立教大学)、政治思

想史(欧米)：佐藤正志(早稲田大学)、政治思想史(日本・アジア)：安西敏三(甲南大学)、政治史(日本・アジア)：奥健太郎(東海大学)、比較政治・政治史(欧米)：岡山裕(慶應義塾大学)、比較政治・政治史(ロシア・東欧)：大中真(桜美林大学)、比較政治・政治史(第三世界全般)：矢澤達宏(上智大学)、国際関係論：岩間陽子(政策研究大学院大学)

⑩ 査読委員会

押村委員長(真淵理事長代読)より、年報政治学2014-I号には、特集論文3本、独立論文14本の応募があり、特集論文1本、独立論文7本の計8本が査読を通過した(採用率47%)ことが報告された。

⑪ 研究交流委員会

大西委員長(真淵理事長代読)より、活動状況が報告された。新規募集については応募がなかったこと、2012年1月に承認した分野別研究会の責任者について、1つの分野別研究会から下記の通り届け出があったこと(「地域統合」分科会 旧責任者 猪口孝→新責任者 吉野良子(変更))、市民社会民主主義研究会と構成主義的政治理論研究会から廃止の申し出があり承認したこと、2014年度研究大会への分科会設置については8件の応募があり、審査のうえ順位(評価点)をつけて企画委員会へ送付したことが報告された。

⑫ 国際交流委員会

城山委員長(真淵理事長代読)より、2014年度研究大会では日英と日韓の2つのセッションを企画していること、2014年度アメリカ政治学会派遣助成を4月末締め切りでホームページにて募集中であることが報告された。

2. 2014年度年次大会について

齋藤理事から準備状況が報告された。

3. 事務局報告

前回12月理事会時の会員数1,776名、この間の退会者6名(うち申し出による退会5名、逝去による退会1名)、今回の入会承認者17名を加えて、

学 会 ニ ュ ー ス

会員数は1,787名となったことが報告された。

場所：京都大学 東京オフィス

(東京都港区港南2-15-1 品川インター
シティ A棟27階)

4. 次回理事会の開催について

日時：2014年6月21日（土）17時～

以上

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 平成25年度収支計算書（会計別）

平成25年3月1日から平成26年2月28日まで

（一般会計）

（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
【経常収入の部】				
I 会費収入	10,914,000	12,503,000	1,589,000	
II 雑収入	135,000	119,175	△ 15,825	
経常収入合計（A）	11,049,000	12,622,175	1,573,175	
【経常支出の部】				
I 事業費	6,820,000	6,163,468	△ 656,532	
1 研究会開催費	1,300,000	1,084,575	△ 215,425	
研究会準備金	600,000	600,000	0	
大会プログラム集作成費	650,000	484,575	△ 165,425	
報告者礼金	50,000	0	△ 50,000	
2 委員会経費	670,000	79,213	△ 590,787	
年報委員会	200,000	0	△ 200,000	
査読委員会	70,000	0	△ 70,000	
企画委員会	70,000	0	△ 70,000	
研究交流委員会	70,000	0	△ 70,000	
文献委員会	140,000	55,300	△ 84,700	
書評委員会	70,000	0	△ 70,000	
選挙管理委員会	50,000	23,913	△ 26,087	
3 印刷費	4,850,000	4,999,680	149,680	
会報印刷費	400,000	268,275	△ 131,725	
年報印刷費	4,450,000	4,731,405	281,405	
4 選挙管理費	0	0	0	
II 管理費	3,480,000	3,434,582	△ 45,418	
1 理事会経費	40,000	70,242	30,242	
2 事務局経費	240,000	26,519	△ 213,481	
運営費	50,000	0	△ 50,000	
人件費	40,000	0	△ 40,000	
経常費	100,000	26,519	△ 73,481	
慶弔費	50,000	0	△ 50,000	
事務局移転費	0	0	0	
3 国際文献社業務委託費	3,200,000	3,337,821	137,821	
基本業務委託費	3,200,000	3,337,821	137,821	
J-STAGE	0	0	0	
ホームページ	0	0	0	
法人格取得費	0	0	0	
4 前年度会計監査料	0	0	0	
経常支出合計（B）	10,300,000	9,598,050	△ 701,950	
経常収支差額（C）=（A）-（B）	749,000	3,024,125	2,275,125	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計（D）	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	200,000	200,000	0	
II 国際交流基金積立金	300,000	300,000	0	
III 予備費	1,000,000	188,177	△ 811,823	
その他資金支出合計（E）	1,500,000	688,177	△ 811,823	
当期収支差額（F）=（C）+（D）-（E）	△ 751,000	2,335,948	3,086,948	
前期繰越収支差額（G）	17,320,915	17,320,915	0	
次期繰越収支差額（H）=（F）+（G）	16,569,915	19,656,863	3,086,948	

学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
【経常収入の部】				
Ⅰ 本年度積立金	200,000	200,000	0	
Ⅱ 受取利息	0	66	66	
経常収入合計 (A)	200,000	200,066	66	
【経常支出の部】				
Ⅰ 事業費	0	0	0	
1 名簿作成費	0	0	0	
2 事前調査費	0	0	0	
経常支出合計 (B)	0	0	0	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	200,000	200,066	66	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
その他資金支出合計 (E)	0	0	0	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	200,000	200,066	66	
前期繰越収支差額 (G)	412,789	412,789	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	612,789	612,855	66	

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
【経常収入の部】				
Ⅰ 本年度積立金	300,000	300,000	0	
Ⅱ 受取利息	0	0	0	
Ⅲ 雑収入	0	0	0	
経常収入合計 (A)	300,000	300,000	0	
【経常支出の部】				
Ⅰ 事業費	3,005,000	1,951,111	△ 1,053,889	
1 国際交流プログラム助成費	1,100,000	1,182,539	82,539	
2 企画委員会国際交流セッション	35,000	0	△ 35,000	
3 国際交流委員会経費	70,000	0	△ 70,000	
4 IPSA 分担金	400,000	427,672	27,672	
5 IPSA 執行委員渡航費補助	900,000	340,900	△ 559,100	
6 大会開催校補助	100,000	0	△ 100,000	
7 国際シンポジウム開催費	300,000	0	△ 300,000	
8 英文雑誌編集委員会経費	100,000	0	△ 100,000	
9 英文雑誌作成費	0	0	0	
経常支出合計 (B)	3,005,000	1,951,111	△ 1,053,889	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 2,705,000	△ 1,651,111	1,053,889	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
Ⅰ 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
その他資金支出合計 (E)	1,000,000	0	△ 1,000,000	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 3,705,000	△ 1,651,111	2,053,889	
前期繰越収支差額 (G)	6,921,599	6,921,599	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	3,216,599	5,270,488	2,053,889	

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 平成25年度収支計算書（総括）

平成25年3月1日から平成26年2月28日まで

（単位：円）

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
【経常収入の部】				
I 会費収入	12,503,000		0	12,503,000
II 雑収入	119,175	66	0	119,241
III 本年度積立金	0	200,000	300,000	500,000
経常収入合計 (A)	12,622,175	200,066	300,000	13,122,241
【経常支出の部】				
I 事業費	6,163,468	0	1,951,111	8,114,579
1 研究会開催費	1,084,575			1,084,575
研究会準備金	600,000			600,000
大会プログラム集作成費	484,575			484,575
報告者礼金	0			0
2 委員会経費	79,213			79,213
年報委員会	0			0
査読委員会	0			0
企画委員会	0			0
研究交流委員会	0			0
文献委員会	55,300			55,300
書評委員会	0			0
選挙管理委員会	23,913			23,913
3 印刷費	4,999,680			4,999,680
会報印刷費	268,275			268,275
年報印刷費	4,731,405			4,731,405
4 選挙管理費	0			0
5 名簿作成事業費		0		0
名簿作成費		0		0
事前調査費		0		0
6 国際交流基金事業費			1,951,111	1,951,111
国際交流プログラム助成費			1,182,539	1,182,539
企画委員会国際交流セッション			0	0
国際交流委員会経費			0	0
IPSA 分担金			427,672	427,672
IPSA 執行委員渡航費補助			340,900	340,900
大会開催校補助			0	0
国際シンポジウム開催費			0	0
英文雑誌編集委員会経費			0	0
英文雑誌作成費			0	0
II 管理費	3,434,582			3,434,582
1 理事会経費	70,242			70,242
2 事務局経費	26,519			26,519
運営費	0			0
人件費	0			0
経常費	26,519			26,519
慶弔費	0			0
事務局移転費	0			0
3 国際文献社業務委託費	3,337,821			3,337,821
基本業務委託費	3,337,821			3,337,821
J-STAGE	0			0
ホームページ	0			0
法人格取得費	0			0
4 前年度会計監査料	0			0
経常支出合計 (B)	9,598,050	0	1,951,111	11,549,161
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	3,024,125	200,066	△ 1,651,111	1,573,080
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	0
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	200,000			200,000
II 国際交流基金積立金	300,000			300,000
III 予備費	188,177			188,177
その他資金支出合計 (E)	688,177	0	0	688,177
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	2,335,948	200,066	△ 1,651,111	884,903
前期繰越収支差額 (G)	17,320,915	412,789	6,921,599	24,655,303
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	19,656,863	612,855	5,270,488	25,540,206

学 会 ニ ュ ー ス

貸借対照表総括表

平成26年2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合計
【資産の部】				
流動資産				
現金預金	18,639,412	412,855	6,984,599	26,036,866
現金	0	0	0	0
振替貯金	14,306,453	0	0	14,306,453
普通預金	4,332,959	412,855	6,984,599	11,730,413
立替金	1,951,111	0	0	1,951,111
未収金	273,000	200,000	300,000	773,000
流動資産合計	20,863,523	612,855	7,284,599	28,760,977
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	20,863,523	612,855	7,284,599	28,760,977
【負債の部】				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	210,000			210,000
未払費用	996,660		1,951,111	2,947,771
預り金			63,000	63,000
流動負債合計	1,206,660	0	2,014,111	3,220,771
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	1,206,660	0	2,014,111	3,220,771
【正味財産の部】				
前期繰越正味財産	17,320,915	412,789	6,921,599	24,655,303
当期正味財産増加額(減少額)	2,335,948	200,066	△1,651,111	884,903
正味財産合計	19,656,863	612,855	5,270,488	25,540,206
負債・正味財産合計	20,863,523	612,855	7,284,599	28,760,977

学 会 ニ ュ ー ス

財産目録

平成26年2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合計
【資産の部】				
流動資産				
現金預金 手許有高	18,639,412	412,855	6,984,599	26,036,866
現金	0			0
振替貯金 ゆうちょ銀行 019 店	14,306,453			14,306,453
普通預金 ゆうちょ銀行 008 店	4,332,959			4,332,959
三菱東京 UFJ 銀行神保町支店		412,855		412,855
三菱東京 UFJ 銀行神保町支店			6,984,599	6,984,599
立替金 国際交流基金分立替	1,951,111			1,951,111
未収金 各会計から振替	273,000	200,000	300,000	773,000
流動資産合計	20,863,523	612,855	7,284,599	28,760,977
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	20,863,523	612,855	7,284,599	28,760,977
【負債の部】				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	210,000			210,000
未払費用 積立金、委託費他	996,660		1,951,111	2,947,771
預り金 一般会計へ振替 (著作権料)			63,000	63,000
流動負債合計	1,206,660	0	2,014,111	3,220,771
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	1,206,660	0	2,014,111	3,220,771
【正味財産の部】				
前期繰越正味財産	17,320,915	412,789	6,921,599	24,655,303
当期正味財産増加額 (減少額)	2,335,948	200,066	△ 1,651,111	884,903
正味財産合計	19,656,863	612,855	5,270,488	25,540,206
負債・正味財産合計	20,863,523	612,855	7,284,599	28,760,977

平成25年度収支計算書、貸借対照表総括表、及び財産目録は、以上の通り相違ありません。

平成26年3月 日

監事

Ⓜ

監事

Ⓜ

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 平成26年度予算(案)

(一般会計)

(単位：円)

科 目	予算額	備考
【経常収入の部】		
I 会費収入	11,500,000	
II 雑収入	120,000	
経常収入合計 (A)	11,620,000	
【経常支出の部】		
I 事業費	8,170,000	
1 研究会開催費	1,300,000	
研究会準備金	600,000	
大会プログラム集作成費	650,000	
報告者礼金	50,000	
2 委員会経費	720,000	
年報委員会	200,000	
査読委員会	70,000	
企画委員会	70,000	
研究交流委員会	70,000	
文献委員会	140,000	
書評委員会	70,000	
英文雑誌編集委員会	100,000	
選挙管理委員会	0	
3 印刷費	5,650,000	
会報印刷費	400,000	
年報印刷費	4,450,000	
英文雑誌作成費	800,000	
4 年報委員会への補助費	500,000	
5 選挙管理費	0	
II 管理費	3,230,000	
1 理事会経費	40,000	
2 事務局経費	190,000	
運営費	50,000	
人件費	40,000	
経常費	50,000	
事務局移転費	50,000	
3 国際文献社業務委託費	3,000,000	
基本業務委託費	3,000,000	
法人格取得費	0	
4 前年度会計監査料	0	
経常支出合計 (B)	11,400,000	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	220,000	
【その他資金収入の部】		
その他資金収入合計 (D)	0	
【その他資金支出の部】		
I 名簿作成積立金	200,000	
II 国際交流基金積立金	300,000	
III 予備費	500,000	
その他資金支出合計 (E)	1,000,000	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 780,000	
前期繰越収支差額 (G)	19,656,863	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	18,876,863	

学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予算額	備考
【経常収入の部】		
I 本年度積立金	200,000	一般会計からの繰入
II 受取利息	0	
経常収入合計 (A)	200,000	
【経常支出の部】		
I 事業費	0	
1 名簿作成費	0	
2 事前調査費	0	
経常支出合計 (B)	0	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	200,000	
【その他資金収入の部】		
その他資金収入合計 (D)	0	
【その他資金支出の部】		
その他資金支出合計 (E)	0	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	200,000	
前期繰越収支差額 (G)	612,855	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	812,855	

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予算額	備考
【経常収入の部】		
I 本年度積立金	300,000	一般会計からの繰入
II 受取利息	0	
経常収入合計 (A)	300,000	
【経常支出の部】		
I 事業費	3,105,000	
1 国際交流プログラム助成費	1,100,000	
2 企画委員会国際交流セッション	35,000	
3 国際交流委員会経費	70,000	
4 IPSA分担金	400,000	
5 IPSA執行委員渡航費補助	1,100,000	
6 大会開催校補助	100,000	
7 国際シンポジウム開催費	300,000	
経常支出合計 (B)	3,105,000	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 2,805,000	
【その他資金収入の部】		
その他資金収入合計 (D)	0	
【その他資金支出の部】		
I 予備費	500,000	
その他資金支出合計 (E)	500,000	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 3,305,000	
前期繰越収支差額 (G)	5,270,488	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	1,965,488	

事務局より

会費納入についてのお願い

年会費をまだ納入されていない方が若干おられます。何とぞ速やかにご協力のほど、お願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。また、シニア会員（会費5,000円）および終身会員（一時金30,000円又は20,000円）の制度がございますので、ぜひご利用下さい。郵便振替により、以下の口座番号、加入者名あてに納入をお願いいたします。

口座番号：00120-2-500664

加入者名：日本政治学会

なお、2014年度末までに2014年度および2013年度の会費を納入されなかった会員の方は、「日本政治学会規約」第8条に基づき、自動的に退会扱いとなりますので、ご注意ください。会費の納入状況につきましてご不明な点は、国際文献社までお問い合わせ下さい。

訃報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

- 山口定氏 大阪市立大学名誉教授・立命館大学名誉教授 ドイツ現代史、政治過程論 1934年生
- 雀部幸隆氏 名古屋大学名誉教授 ヨーロッパ政治思想史、政治哲学・倫理 1936年生
- 遠藤浩一氏 拓殖大学教授 日本現代政治論、政党論、選挙分析・投票行動論、日本政治史 1958年生
- 田中収氏 名古屋経済大学名誉教授 インド政治思想史、南アジア研究 1925年生

本号の目次

1. 日本政治学会2014年度研究大会について…………… 1
2. 2014年度研究大会プログラム…………… 2
3. 研究大会報告論文の公開・入手方式について…………… 8
4. 研究大会開催校（早稲田大学）からのお知らせ…………… 9
5. 論文公募のお知らせ…………… 10
6. 理事会議事録…………… 12
7. 平成25年度決算（案）…………… 17
8. 平成26年度予算（案）…………… 22
9. 事務局より…………… 24

2014年6月15日発行

発行 日本政治学会事務局

秋 月 謙 吾

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学法学研究科 日本政治学会事務局

FAX: 075-753-3290

E-mail: jpsa@law.kyoto-u.ac.jp

<http://www.jpsa-web.org/>

(株)国際文献社

日本政治学会担当（住所変更・会費）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

Phone: 03-5937-0317

FAX: 03-3368-2822

E-mail: jpsa-post@bunken.co.jp

印刷 (株)国際文献社